



大谷場東

教育目標

かしこく なかよく たくましく かがやく子の育成

- ◆発行：さいたま市立大谷場東小学校
- ◆住所：336-0016 さいたま市南区大谷場2丁目13番54号
- ◆電話：048-882-4618：FAX：048-811-1327
- ◆URL：<http://oyabahigashi-e.saitama-cty.ed.jp/index.html>

「辛い」と「幸せ」・「優しさ」と「厳しさ」

校長 岡村 洋彦

早いもので、1学期も折り返しを迎えました。

ところで、先日、詩人で画家の星野富弘さんの詩を読みました。その中に「辛いという字は幸せになれそうな字である。」という一節がありました。物が溢れている現代ですが、だからこそ子どもたちに「自他を尊重する心」「正義を愛する心」「感動する心」などを育成していかなければなりません。時には根気強く物事に取り組み、少し難度の高い目標を設定させ忍耐力を培い、達成感や充実感を味わわせることが重要です。少々辛くても、自分で乗り越えて幸せを掴めるように励ましていくことが大切です。星野富弘さんの詩にあるように、「辛い」という字に“一本線”を加えると「幸せ」になります。その“一本線”とは一人ひとりの「心のもち方」だと思います。

ある国際意識調査によると日本の若者の「不幸せ感」は世界の中でワーストのようです。イライラしている原因は様々で複合的だと思いますが、まずは、子どもたちが「心を整え」「地に足をしっかり着け」「前をしっかりと向いて」「一步一步確実な歩みを進め」られるように努めてまいります。そのためには、家庭と学校とが協力し合い、「優しさ」と「厳しさ」のバランスを大切にすることです。「優しさ」だけでは甘えが出たり、わがままが出たりして、よい心は育ちません。また、逆に「厳しさ」だけでも気持ちがすさんだり、いじけたり、イライラしたりしてよい心は育ちません。子どもたちは1日の中で何回か注意されたり、ほめられたりする機会があります。厳しく叱ったり指摘したりした後でも、なぜ注意されたのか気づくようになれば、ほめることも大切です。子どもたちはときどき失敗をすることがあるでしょう。そのとき注意されたり、励まされたりすることによって、的確な判断ができる人間に育っていきます。このようなことを繰り返し経験することにより、立派な人間に成長していくのだと思います。学校、家庭、地域のより多くの眼で子どもたちを見守ってまいります。今後よろしくお願いたします。



さいたま市 PR キャラクター つなが竜
5月24日「南区一斉あいさつ運動」のため、
本校及び大谷場中に来校